受給事例 肢体障害

事例 1 脳梗塞後右不全麻痺で年間約 78 万円を受給できたケース

THE MAKE WITH THAT THAT TO STITLE TO THE STITLE THE STI	
相談者	女性 (60代)
傷病名	脳梗塞後右不全麻痺
決定した年金額と種類	年間約78万円/障害基礎年金2級
家族構成	夫と二人暮らし
従前の状況	約1年半前、地方に出かけている時に急にペットボトルの水が
	飲めなくなり、そのうち呂律も回らず歩行が不安定になった為
	近くの病院へ救急搬送された。検査の結果、脳梗塞と診断され
	た。 後遺症として右上下肢不全麻痺が残り、リハビリを継続す
	るも状態はほとんど変化しなかった。
現在の状況	月 2~3 回外来通院しリハビリを受けている。外出時は杖が必
	須で夫が必ず付き添っている。杖を使用してもなお歩行は不安
	定でカーブでバランスを崩し転倒しそうになる。また調理全
	般、入浴、掃除等は 夫にやってもらっていて援助無しでの生活
	は困難。
就労状況	無職

事例 2 右大腿骨頭壊死で年間約 60 万円を受給できたケース

相談者	男性 (50 代)
傷病名	右大腿骨頭壊死
決定した年金額と種類	年間約 60 万円/障害厚生年金 3 級
家族構成	一人暮らし
従前の状況	1 年程前から右股関節付近や臀部に痛みを感じるようになり
	自宅近くの整形外科を受診、その後総合病院で精査したところ
	右大腿骨頭壊死と診断された。すぐに右股関節に人工関節を装
	着する手術を受けた。
現在の状況	術後、徐々に痛みは治まったが、歩きづらさは残っており以前
	よりつまずき易くなった。また午後に疲れがたまってくると右
	足が上がらなくなり、 肩が下がってきて歩行が不安定になっ
	てしまう。仕事では1日に訪問できる営業件数がもともとの6
	割程度に減り制限がかかっている。
就労状況	一般企業で就労中

事例 3 左変形性股関節症で年間約74万円を受給できたケース

相談者	男性 (40 代)
傷病名	左変形性股関節症
決定した年金額と種類	年間約74万円/障害厚生年金3級
家族構成	母親と同居
従前の状況	20 代の頃から腰付近に鈍い痛みや左股関節付近に違和感を認
	めた為近医を受診したところ特発性大腿骨頭壊死と診断され
	たものの年齢が若かった為症状が進行した際の手術をすすめ
	られ経過観察となった。その後は痛みが出る都度痛み止めと湿
	布薬をもらい数か所の病院を転々として治療していたが約半
	年位前から症状が悪化した為、左股関節に人工関節を装着する
	手術を行った。
現在の状況	週1回の外来通院をしてリハビリを続け、痛み止めの薬を服用
	している。 術後の経過は良好であるが、長距離の歩行は困難で
	激しい動作も出来ない為仕事は配置換えをしてもらい内勤の
	業務に従事している。
就労状況	一般企業で就労中

事例 4 筋ジストロフィーで年間約 78 万円を受給できたケース

相談者	男性 (30代)
傷病名	筋ジストロフィー
決定した年金額と種類	年間約78万円/障害基礎年金2級
家族構成	両親と同居
従前の状況	小学生の時、下校途中ふくらはぎに痛みを感じ病院を受診し、
	色々な検査をした結果、筋ジストロフィーの診断を受けた。以
	後経過観察となり半年から1年に1回のペースで受診をしてい
	た。 中学、高校にすすむにつれ、歩行や階段昇降などに徐々に
	制限がかかるようになり、転倒することも増えていった。
現在の状況	現在、階段昇降は手すりがあってもかなり厳しくエレベーター
	のない施設や店舗の利用は出来ない。また衣類の着脱は壁に体
	重をかけたり座ったりしてやっと出来る状態でかなり時間が
	かかる。 料理、買い物、掃除、洗濯等身の回りの多くのことは
	両親にサポートしてもらっている状況。
就労状況	障害者枠で就労中

事例 5 **脊柱管狭窄症で年間約 130 万円を受給できたケース**

相談者	男性 (50 代)
傷病名	脊柱管狭窄症・変形性頚椎症
決定した年金額と種類	年間約130万円/障害厚生(共済)年金3級
家族構成	子どもと同居
従前の状況	勤務中、立っていられないくらいの腰痛と両足のしびれを感じ
	受診。様々な治療や何回かの手術を受けるものの腰と両下肢の
	痛みと痺れは消えなかった。 数年後、腰椎に一部骨頭壊死が見
	られチタンボルト固定術を受けた。医者からは徐々に良くなる
	可能性はあると言われていた。
現在の状況	外来通院をして治療を続けている。 今もなお両下肢に痛み・痺
	れは強くあり、長い距離は歩けないし、 痛みと痺れで夜中に何
	度も目が覚めてしまい熟睡できない状態。
就労状況	無職

事例 6 **頚椎後縦靭帯骨化症で年間約 160** 万円を受給できたケース

相談者	男性 (50 代)
傷病名	頚椎後縦靭帯骨化症
決定した年金額と種類	年間約 160 万円/障害厚生年金 2 級
家族構成	妻と二人暮らし
従前の状況	数年前に首を痛めており病院でレントゲンを撮ったところ頚
	椎後縦靭帯骨化症が認められた。 徐々に首、肩、背中等の痛み
	が強く出るようになり毎日強い鎮痛剤を飲まなければならな
	くなった。また四肢にはしびれが出て杖を使わなければ生活が
	出来なくなった。膀胱直腸障害も進行し手術をするに至った。
現在の状況	四肢のしびれ、身体の広範囲に渡る痛みを自覚。外出時は杖が
	必須である。手先の細かい動作は思うように出来ず日常生活の
	様々な場面で不便を感じている。食事は箸を使えず、トングを
	使っても日常的に食べ物をポロポロこぼしてしまう。衣類の着
	脱や文字を書くことも非常に困難になっている。
就労状況	無職